



第37回 大阪府作業療法学会

演題最優秀賞 井谷 賢
(株式会社ハーティケア 訪問看護ステーションころこ)

この度、第37回大阪府作業療法学会にて演題最優秀賞という光栄な賞をいただきありがとうございます。

私は普段、精神科の訪問看護ステーションで臨床に携わっております。日々の臨床の中で同法人内はもとより多職種、多支援機関と連携を取りながら利用者の地域に根ざした生活を支援してまいりました。日々の関わりの中で利用者への説明や声掛けにしても、他支援者に対しての情報提供にしても伝え方ひとつで状況が好転するケースも難しくなるケースも経験してきました。そんな経験を得て自分の考えを「言語化する」という取り組みはとても大切だと感じています。作業療法では対象者の生活を文脈として捉え、文脈の中に潜む困難に対処していく関りだと考えています。しかしその分かりにくさから理解されづらい側面もあると感じてきました。そこで「言語化する」営みは自分が対象者をどう理解しているのか、どの側面から評価をしているのか、どこに介入しようとしているのかを明らかにするために重要なプロセスだと思います。今回の学会発表を通して私自身も自分の介入を振り返る機会になり自分自身の臨床を見つめ直すきっかけにもなりました。今回の発表を経て今後の介入でも更なる質の向上と丁寧な関りを継続していけるよう身を引き締めて邁進していこうと思いました。

最後にはなりますが、藤原学会長をはじめ今学会を運営して下さった皆様、私の日々の臨床にお力添えをいただいている皆様、事例として発表を許可して下さい利用者様に感謝いたします。



学会長賞 森 貴大 (デイサービス喜仙)

この度、第37回大阪府作業療法学会にて学会長賞を拝受賜りましたデイサービス喜仙の森と申します。多くの素晴らしい報告の中から私の報告を選んで頂けたこと大変光栄です。またこれまでの想いが実りだしたと感ずることのできる瞬間でありました。

この報告に至るまでも喜仙スタッフの皆様も共に想い、共有し、遂行できたからこそその受賞であると確信しており、喜仙スタッフの皆様にも感謝申し上げます。

私自身これまで高齢者の健康の在り方を考える機会を多く経験させていただき、個人の健康をとらえていく中で高齢者における「社会性」という言葉の大切さと難しさを感じておりました。そして、個人をより良くするために地域のハード面の課題に焦点を向け、今回の報告にあたる「集いの場」を創り上げていくことに至りました。

デイサービスは介護を要する方が集まる場所であり、生活においても自立とは言い難い方々が多い中で、人として最後まで「他者のため」に動くこと、「他者と」何かすることが人生における美德であるという想いを形にし、落ちゆく身体能力のなかでもだれかのためにできること、誰かとともにできることを一緒に探し続けられる場所として喜仙が在り続けられるよう、これからも喜仙を支えられるよう邁進致します。

最後に、変わりゆく社会・地域のなかで喜仙として変化し続ける(成長しつづける)場所であるために今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

